

## 受身形式の多様性と構文的特徴

白 明 学

### 1.はじめに

従来の研究において韓国語の受身の研究は、受身文に用いられる形式が受身としての条件を満たしているかどうかといった観点からの議論が中心になっている。つまり、受身形式の多義性と生産性などの問題を中心とする議論である<sup>1</sup>。しかし、構文上の観点からすると、韓国語には以下のようなタイプの受身文が存在する。

- 1) 현관으로 이어지는 돌바닥 오른쪽으로 화단이 만들어져 있었다.  
 hyeonkwan-uro …… hwatan-i mantuleo-*ci*-eo isseoss-ta  
 玄関口に続く石畳の右側には 花壇が 作られていた。(由)
- 2) 철수가 개한테 쫓기다  
 Cheolsu-ka kay-hanthe ccot-*ki*-ta  
 太郎が 犬に 追いかけられる
- 3) 철수는 선생님한테 술을 押収당했다  
 Cheolsu-nun seonsayngnim-hanthe sul-ul apsu-*tangha*-yeoss-ta  
 太郎は 先生に 酒を 押収された

上記の例はそれぞれ、1) が「無生物主語受身文」、2) が「直接受身文」、3) が「持ち主の受身文」と呼ばれるタイプの構文である。これらの構文で用いられている受身形式は単一ではなく、「*ci-ta*」「*ki-*」「*tangha-ta*」のように複数の形式が使われている。そこで本稿では、韓国語における複数の受身形式がそれぞれ異なる機能を持って働く形式であることを主張し、韓国語の受身形式に基づく議論が、対照という観点から言語一般の受身文の特徴を捉える上で有効であることを示す。そのため、一般的に受身と呼ばれるものには、以下のような「ある基盤の受身」と「いる

<sup>1</sup> 韓国語の受身形式は、固有語動詞には「*-i-*」「*hi-*」「*li-*」「*ki-*」「*ci-ta*」が、漢語動詞には「*toy-ta*」「*pat-ta*」「*tangha-ta*」が用いられ、これらすべてを受身形式として認めるかどうかについては、統一的な見解が得られているわけではない。

「基盤の受身」構文があると仮定する<sup>2</sup>。

「ある基盤の受身」もの（非情物）に起きた変化を捉えるもので、本来人の行為によって成り立つ事態を、ものを主役として述べるための受身。動作主を働きかけ手として想定しにくいもの。

「いる基盤の受身」人（有情者）の存在という事柄を中核とし、その主語における被影響性を捉えるための受身。動作主が働きかけ手としての役割をもつもの。

以上の分類のもと、第2節では、韓国語受身形式を中心に他言語との比較・対照を通じ、韓国語受身形式の違いが、「ある基盤の受身」と「いる基盤の受身」をどのように一般化できるかについて述べる。続く第3節では、「いる基盤の受身」の延長線上にある「間接受身」の問題について、「持ち主の受身」の特徴を中心に考察、日韓両言語の間接受身の異同について述べる。

## 2. 韓国語受身形式からみた「ある基盤の受身」と「いる基盤の受身」

本稿で提案する「ある基盤の受身」と「いる基盤の受身」とは、次のような概念を示すものとする。前者は、もの（非情物）に起きた変化を捉えるもので、本来人の行為によって成り立つ事態を、ものを主役として述べるため、行為を捨象することにより、ものの状態・変化に焦点が置かれるようになり、意味的にも客観的・中立叙事的な機能をもつものである。後者は、人（有情者）の存在という事柄を中核とし、その主語における被影響性を捉えるもので、人（受身文の主語）を場にして起きた出来事を述べるため、そこには当該の行為からの影響を人が身に受けるという意味が発生する。このような定義の下、「ある基盤受身」は韓国語受身形式の「ci-ta」「toy-ta」タイプであり、「いる基盤の受身」は「pat-ta」「tangha-ta」タイプであるとする。「-i,-hi,-li,-ki-」系<sup>3</sup>の受身は、両構文の中間的性質を持つタイプであるとする<sup>4</sup>。

以下、本節では、他言語との比較・対照の観点から韓国語の受身形式の分析を行い、その結果から上で提示した二つの受身の特徴を検証する。

### 2.1 「ある基盤の受身」

最初に、「ある基盤の受身」に用いられる「ci-ta」「toy-ta」受身について、日本語との対照から

<sup>2</sup> この分類は、他に、松下（1928）における「単純の被動 vs. 利害の被動」（第1章参照）、「非固有受身 vs. 固有の受身」、志波（2004）の「脱他動化タイプ受身 vs. 被動者主役化タイプ受身」に相当するものである。「非情 vs. 有情」の概念を基本ベースにするという点では共通するが、本稿では対照という観点からの受身の特徴を捉えられる概念として、上記の用語による説明を試みる。

<sup>3</sup> 以下、「-i-」と表記する

<sup>4</sup> 韓国語の受身形式の詳細については、拙稿（白 2007）を参照されたい。

みられる特徴を述べる。「なる」の意味を持つ「ci-ta」「toy-ta」による受身は、日本語の「てある」構文との類似性を見出すことができる。

- 4) a. 집 앞에 냉장고가 버려져 있다. / 家の前に冷蔵庫が捨ててある  
cip ape natngcangkoka peorieo-**ci**-eoissta  
b. 편지에는 친구 얼굴이 그려져 있었다.  
手紙には友達の顔が描いてあった  
pyeoncienun chinku eolkuki kurieo-**ci**-isseossta  
c. 시계는 이미 수리되어 있다. / 時計はもう修理してある。  
sikenun imi suri-**toy**-eoissta

上の例4) は韓国語の「ci-ta」「toy-ta」による受身形が、日本語の「てある」構文と対応している例で、「てある」構文は一般的に状態ないし位置変化を含意する動詞についてその行為が完了し、その結果が残存していることを述べるとされる<sup>5</sup>。それ故、変化の結果を伴わない動詞には用いられない。

- 5) a. \* 肩が叩いてある / \*eokkay-ka ttayrieo-**ci**-eoissta  
b. \* 背中が男に押してある / \*tung-i namcha-hanthe mileo-**ci**-eoissta  
c. \* カーブがキャッチャーに投げてある  
\*curve-ka catcher-hanthe teoncieto-**ci**-eossta

例5) のように、「叩く、殴る、蹴る、触る、押す、投げる、撃つ」などの打撃・接触の動詞、移動動詞は、相手または対象の変化の結果を含意しない動詞なので、「てある」構文として不的確と判断される。そして、これらの動詞は韓国語においても「ci-ta」または「toy-ta」による受身形を許容しない。これは「ci-ta」「toy-ta」の本動詞としての意味が関係していると考えられる。つまり、「ci-ta」自体が結果状態あるいは変化の結果を表す「なる」「生じる」といった意味を持つ動詞なので、打撃・接触動詞、移動動詞のように変化の結果を含意しない動詞には用いられず、この形式により受身になる動詞も変化の結果を伴う動詞に限られると考えられる。よって、韓国語における受身形式「ci-ta」「toy-ta」は、主語に起きた変化の結果を捉えるものとして機能する可以考虑することができる。

次に、韓国語における「-i」による受身は、「非情物受身」中心のロマンス語<sup>6</sup>との比較から、

<sup>5</sup> 影山太郎 (2001)

<sup>6</sup> 志波 (2004) では、現代ロマンス諸語には、ラテン語の翻訳以外には<被動者主役化>タイプの受身文が存在しないのに対し、非情物が主語となる<脱他動化>タイプは用いられているとされている。

以下のような類似点を見出すことができる。

受身用法と自動詞用法の形態上の区別がつかないケースがある。

- 6) Se abrió la puetra 戸が開いた／戸が開けられた。  
se open-3sg.PAST the door<sup>7</sup> (志波；2004)
- 7) Estas revistas se venden mucho これらの雑誌はよく売れる／売られる。<sup>8</sup>  
this magazine se sell-3pl. much
- 8) a. 꽃봉오리는 … 中略 … 산들바람에 흔들리고 있었다.  
kkotpongoli-nun…… huntul-li-ko……  
桜のつぼみは … 中略 …、そよ風にゆられていた。(ト)
- b. 버스를 타고 돌아갈 때보다도 차가 흔들리고  
peosu-lul thako……. …… huntul-li-ko…….  
バスに乗って帰る時よりも 車がゆれ。(由)

上の例6)と7)はスペイン語の例であるが、スペイン語の再帰構文の受身用法は、自動詞用法か受身用法かが曖昧になり、受身用法が自動詞化用法の延長にあるとされる<sup>9</sup>。そして例8)の韓国語においても、a)「ゆられる (huntul-li-ta)」とb)「ゆれる (huntul-li-ta)」のように、受身文と自動詞文が同じ形式によって表されている。このような形式上の曖昧性は、受身用法が自動詞文の欠如を補うために機能していると考えられる。つまり、このような形態上の曖昧さを持つ形式は、人の行為によって成り立つ他動的行為を、動作主の潜在化により、対象を主語に昇格させ、その対象の立場から述べるためのものと考えられる。よって、韓国語の「-i-」のような用法を持つ言語は、次のように対格名詞が残り、与格名詞句が受身文の主語となるタイプを原則として許容しない<sup>10</sup>。

- 9) \* 미즈코는 앞줄에 앉았던 남자한테 말을 걸렸다  
mitsukonun apcule ancassteon namchahanthe malul keol-li-eossta  
美津子は 前列の 人から 声を かけられた。(河)
- 10) a. Marie a donné un livre à Jean11  
Marie has given a book to Jean

<sup>7</sup> スペイン語の「Se」は、主語と同じものを表す再帰代名詞のようである。

<sup>8</sup> 東京大学 上田博人、スペイン語ガイドブック  
<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gakusyu/guia/dousi/saiki.pdf>

<sup>9</sup> 志波 (2004)

<sup>10</sup> ただし、Obéir (服従する) と désobéir (背く)、pardonner (許す) 等の動詞は例外のようである。

<sup>11</sup> 鷺尾 (1997) pp.11

## b. \*Jean a été donné un livre par Marie

Jean has been given a book by Marie

ジャンがマリーに本を与えられた。

上の例は、韓国語とフランス語の例であるが、動詞の形は「keol-*li*-ta」、「été donné」のように形式の上では受身形をとれるものの、与格名詞句が受身文の主語になる場合にはいずれも受身文としては不適格とされる。これは、与格名詞句が受身文の主語となる文は、視点の移動を問題にする表現であり、動作主が具現化している上、対象そのものが、動詞が表す行為の影響を受けたり、変化が起きたりしているわけではないので、受身として成立しないと考えられる。

最後に、漢語動詞に用いられる「toy-ta」について、日本語との対照から窺える特徴を述べる。現代日本語の漢語動詞には、自他両用の用法を持つとされる動詞がある。以下のような例である。

## 11) a. 6者協議は、北朝鮮の核問題が解決したときに終わるのか。(asahi.com)

6 시간 협상은 북한의 핵문제가 해결되었을 때 끝나는 것일까?

... pukhanuy haykmunce-ka<sup>12</sup> haykyeol-toy-eoss ttay ...

## b. システムアップグレードで生じていた問題を解決した

시스템 업그레이드 때문에 생겼던 문제를 해결하였다.

... saykin munce-rul haykyeol-ha-eoss-ta

## 12) a. 歴史問題でたびたび交流が中断した経緯を踏まえ ... (asahi.com)

역사문제로 번번히 교류가 중단되었던 점을 고려해

... kyoryu-ka cungtan-toy-n kyeouyul

## b. 更新プログラムのインストールを中断した。

수정프로그램의 인스톨을 중단했다

... insuthol-ul cungtan-ha-eossta

上の例 11a) と 12a) の日本語の文は、「解決する・中断する」という漢語動詞が「核問題が解決した」、「交流が中断した」のように、自動詞文として用いられていると考えられる例である<sup>13</sup>。

<sup>12</sup> 韓国語では、主格を表す助詞として「i / ka」が、対格を表す助詞としては「ul / rul」が用いられ、それぞれは音韻環境によって使い分けられる。

<sup>13</sup> 日本語の自他両用動詞の中には、上の例のように「問題が解決する／解決される」「交流が中断する／される」と、受身形が可能な場合と、「半減する／\*半減される」「回復する／\*回復される」のように「直接受身」の受身形が取れない場合がある。本論では、この問題の詳細の立ち入る余裕はないので、稿を改めて論じたい。後者の動詞も韓国語では「toy-ta」が用いられる。

一方、11b) と 12b) では「問題を解決した」、「インストールを中断した」のように、対象への働きかけを表す他動詞文にも「漢語名詞」に「する」が後続する形式が用いられている。つまり、自他両用の用法を持つ動詞である。

これに対し、韓国語では、自動詞文では「核問題 ka 解決 toy-ta (核問題が解決される)」、「交流 ka 中断 toy-ta (交流が中断される)」のように、「漢語名詞」に「toy-ta」が、他動詞文では、「漢語名詞」に「hata (する)」がそれぞれ用いられている。

以上のような結果から窺えることは、韓国語では主語が働きかけ性を有する主体であるかどうかによって「hata」と「toy-ta」が対立していると考えられる。つまり、「他動(能動)／自動」の対立を見せるものとして捉えることができる。他方、日本語における受身形式の「される」は「toy-ta」とは異なる機能を持つと考えることができる。言い換えれば、日本語の「する／される」の対立は、主語が働きかけ性を有するか否やかだけでなく、主語に立つものが、動詞が表す行為を身に受けているかどうかをベースにする対立であると考えられる。次の例を見てみよう。

13) a. 規約違反行為があったと、私は一方的にサービスを中断された。

b. \*규약을 위반했다고, 나는 일방적으로 서비스를 중단되었다

kyuyakul ... na-nun ilpangceokuro seopisu-rul cungtan-toy-eoss-ta

13a) は主語の受ける被影響性を表す受身文として捉えることができ、述語にも「中断される」のように、「される」が用いられている。対照的に、韓国語では例 13b) のように、対格名詞を伴い、動作主の積極的な働きかけにより、主語に立つ者が自らの意志と関係なく当該行為からの影響を身に受けているという意味を表す文では、「toy-ta」受身文は非文となる。このような結果を踏まえ、韓国語における「toy-ta」形式は他動的事態を自動的に捉えるところにその 1 次的機能があるものと考えられる。

以上より、「ある基盤の受身」は機能的に次のような特性を持つと考えられる。

「他動(能動)／自動」の対立をベースにし、その延長に 2 次的に「能動／受身」の対立を表す形式として機能する。意味的には、対象の変化または状態に焦点が置かれるため、対象以外の昇格を許容しない。

すなわち、「他動／自動」の対立形式として機能するときは、主語に起きた変化が注目され、自動詞相当句として用いられるので、動作主は排除される。たとえば、例 4) における韓国語の「ci-ta」受身のように、動作主なしの文の方が自然で、動作主を伴うと不自然な文となる。

「能動／受身」の対立形式として機能するときは、動作主は潜在化される。言い換えれば、動作主の想定はできるものの、働きかけ手としての積極的な役割は薄れ、事態への関与を暗示する

ものとして存在するので、一般的に動作主は省略されるか、例 8a) の「桜のつぼみは、そよ風に揺られていた」と例 12a) の「歴史問題で交流が中断された」のように、動作主としてではなく原因等を表すものとして表出されることが多い。

## 2.2 「いる基盤の受身」

ここでは「いる基盤の受身」に用いられる韓国語の受身形式の「pat-ta」「tangha-ta」を取り上げ、日本語との対照という観点から述べていく。ただし、韓国語における「pat-ta」「tangha-ta」は漢語動詞に用いられる形式であるので、以下、漢語動詞受身文を中心に考察する。

2節で述べたように、「いる基盤の受身」に用いられる韓国語形式は「pat-ta」「tangha-ta」で、この形式の受身文は、常に有情者を主語にとり、非情物主語受身文は許容しない。次のような例である。

- 14) 철수가 경찰한테 체포당했다  
cheolsuka kyeolchalhanthe chayphotangha-eossta  
チョルスが 警察に 逮捕された
- 15) 친구가 조폭한테 아들을 유괴당했다  
chinkuka cophokhanthe atulul yukoytangha-eossta  
友人が 暴力団に 息子を 誘拐された
- 16) 소매치기범을 잡은 아들이 경찰한테 공로를 표창받았다.  
somechikipeom capun atuli … phyochangpat-ass-ta  
スリを 捕まえた 息子が 警察にその功労を 表彰された

上の例では、すべて有情者が主語となり、述語に「逮捕 tangha-ta」「誘拐 tangaha-ta」「表彰 pat-ta」のように「pat-ta」「tangha-ta」が用いられ、日本語の方も「逮捕される・誘拐される・表彰される」という受身形になっている。さらに、動作主マーカが「hanthe / に」によって顕在化しており、当該事態からの影響を主語が身に受けるという「いる基盤の受身」と捉えられる例である。ところで、ここで注目したいのは、上の韓国語の述語は「逮捕 toy-ta」「誘拐 toy-ta」「表彰 toy-ta」のように「toy-ta」への置き換えが可能であるという点である。次の例を見てみよう。

- 14') 철수가 경찰에 체포되었다  
cheolsuka kyeolchale chayphotoy-eossta  
チョルスが 警察に 逮捕された

上の 14) と 14') は、述語に用いられているものが「tangha-ta」と「toy-ta」のように受身形式が

違うだけで、基本的には同じ出来事を表しており、対応している日本語の方も同じ表現が使われている。しかし、両者の間には意味的な相違がある。前者の 14) は動作主の「警察」が働きかけ手としての役割を持ち、その影響を主語が受けているという解釈がなされる。一方、後者の 14') における「警察」は動作主というよりは、主語の「チョルス」の身柄が拘束されている場所といった帰属先として機能しているという解釈が可能である。つまり、14') のような文は、主語のおかれた状況の変化を表す自動詞文に類似した文として捉えることができる。よって、韓国語では、有情者が主語になる文においても、主語への被影響性を表すか、それとも主語のおかれた状況や状態の変化を表すかによって、受身形式が使い分けられる。

一方、日本語では、和語動詞には「捕まる／捕まえられる」という自動詞と受身の形式上の対立があるが、漢語動詞においては、14) と 14') の例のようにその対立が中和する場合があります、日本語においても受身文の意味的特徴に形式以外の要素が関わることもあるといえる。

以上より、「いる基盤の受身」は機能的に次のような性質を持つと考えられる。

有情主語を取る「いる基盤の受身」には意味特徴の異なる 2 つタイプ、「pat-ta」 「tangha-ta」タイプと「toy-ta」タイプとが共存し、「能動／受身」の対立を表す形式として機能するとき（「pat-ta」 「tangha-ta」タイプ）は、受身文の主語が当該事態からの影響を被るという意味特徴をもち、「他動／自動」の対立を表す形式として機能するとき（「toy-ta」タイプ）は、「ある基盤の受身」に類似する意味特徴を持つ。

以上、韓国語の受身形式を中心に「ある基盤の受身」と「いる基盤の受身」の特徴について述べてきたが、この分類は韓国語と日本語の受身の特徴をより包括的に説明できる要諦になるであろう。ことばを換えれば、現代韓国語の受身は「他動／自動」の対立をベースとし、その延長に「受身用法」があると考えられる。つまり、「ある基盤の受身」がその中核になっている。一方、日本語の受身は「能動／受身」の延長に「自動化用法」があると考えられ、「いる基盤の受身」を中核にしている言語であるといえる。

### 3. 間接受身の成立可能性

ここでは、「いる基盤の受身」の延長上にあると考えられる「間接受身」の成立可能性について、韓国語における「持ち主の受身」を中心にすえ、他言語との共通点と相違点について述べていく。

#### 3.1 持ち主の受身の特徴

「ある基盤の受身」では、事態参加者が 1 つ減るのが一般的傾向であるのに対し、「持ち主の受



身」は、対格名詞句の存在と、結合価の減少が起こらないという点では、結合価の増加を伴う「迷惑の受身」とともに「間接受身」として捉えることができる。では、「ある基盤の受身」中心の言語といえる韓国語がなぜ持ち主の受身を許容するのが問題となるが、この現象には、以下のような韓国語構文の特徴が関係していると考えられる。

- 17) 칠수는 개한테 팔을 물리다.  
 Cheolsu-nun kay-hanthe pal-ul mul-li-ta  
 チョルスは 犬に 腕を 噛まれる／噛ませる

韓国語における「-i」の接辞は受身だけでなく使役に用いられる形式で、例 17) は日本語では受身文としても使役文としても解釈できる例である。一見相反するように見えるこの使役と受身の間には密接な関連性があるとされ、たとえば、鷲尾（2005）では、使役形式で受身の意味を表す言語の例が挙げられ、以下のような記述がなされている。

- 18) Gerel Dorjoor xüügee magtuukav. (モンゴル語)  
 Gerel Dorj.ins son.ref praise.cause.past  
 ゲレルがドルジに息子を誉めさせた／ゲルドがドルジに息子を誉められた
- 19) \*a. Jean a été broyé sa voiture par un camion (フランス語)  
 Jean aux been smashed his car by a truck  
 b. Jean s'est fait broyer sa voiture par un camion  
 Jean self-aux made smashed his car by a truck  
 c. ジャンがトラックに車を潰された。

例 18) では、モンゴル語の使役構文が日本語においては使役と受身の両方の意味に対応している。例 19) のフランス語では、日本語の受身文 19c) に対応する受身構文 19a) は不可能であるが、19 c) の意味内容は 19b) のように se faire 使役構文によって表すことができる。したがって、フランス語の se faire 使役構文は、独立の理由で生じる受身文の空白を埋める機能を担う構文であり、仮に 19a) の受身文が適格であったら表すはずの意味－受身の意味－を表す構文であるとされ、日本語では受身形式で表される「間接受身（持ち主の受身）」の意味がほかの言語では使役の形式で表されるだけで、ヴォイス全体からすれば本質的な差異はないとされている。

では、なぜ上の 17) の韓国語の例が使役と受身の両方の解釈が成り立つかということが問題となるが、これには次のような分析が与えられる。

- 17) a. [太郎は犬に腕を噛まれる]  
 ↳ [太郎は TOP (犬に腕を噛まれる) ことをs 被る] s'  
 b. [太郎は犬に腕を噛ませる]  
 ↳ [太郎は TOP (犬に腕を噛まれる) ことをs する] s'<sup>14</sup>

上の 17) 受身文と使役文では、共通的に「腕」と「犬」の間には受身の関係が成り立つと考えることができ、行為者の「犬」の行為が主語の「太郎」にまで及ぶという関係を表す場合は受身の解釈になり、17'b) のように行為者の行為を対格名詞だけが被り、主語は能動的立場にあるという関係を表す場合は使役に解釈になるという分析ができる。つまり、ある事態（太郎の腕が噛まれた）に対して、その事態の成立が主語（太郎）の意図によるものではないと理解できる状況の下では、受身の解釈となり、その事態が主語の意図した行為（たとえば、犬の訓練のためとか）であると理解できる状況では、使役の解釈を受けると考えられる<sup>15</sup>。ここで注目したいのは、使役文が受身の意味を内在しているという点であり、この特性からの拡張により使役文が受身文として意味を獲得するようになったのではないかと考えられる。この使役と受身の関連性についての具体的な検討については今後の課題にしたい。

### 3.2 日本語との違い

上述のように、「持ち主の受身」の使用という点では、韓国語は日本語と共通しているが、韓国語には日本語にはないような、以下のような制約が見られる。

- 20) 영희는 뱀한테 【자신의 다리를 / \*애완견의 다리를】 물렸다  
 Yeonghi-nun paym-hanthe casin-uy tari-rul / aywankyeon-uy tari-rul  
 mul-*li*-eoss-ta  
 花子は 蛇に 【自分の足を / ペットの足を】 噛まれた
- 21) 철수는 태수한테 【자신의 애인 / \*친구의 애인을】 빼앗겼다.  
 Cheolsu-nun Thaysu-hanthe casin-uy ayin-ul / chinku ayin-ul  
 ppayas-*ki*-eoss-ta  
 太郎は 次郎に 【自分の彼女 / 親友の彼女を】 奪われた

例 20)、21) から窺えるように、適切な状況が与えられれば自然な文として成立する日本語とは

<sup>14</sup> S: Sentence, TOP: Topic

<sup>15</sup> 日本語では、ある事態が主語の意図によるものであることを明示するときに、恩恵を表す「～てもらう」構文を用いる場合がある。

太郎は花子に髪を切らせた / 太郎は花子に髪を切ってもらった。

対照的に、韓国語における持ち主の受身文はある種の制約があり、対格名詞句が自分自身の所有物（人）の場合は、自然な文として成立するが、自分自身のものでない場合には成立しない。言い換えれば、主語と対格名詞句との間で所有関係が認められなければならないという制約がある。上の例では、《花子は：足を＝花子の足／太郎は：彼女を＝太郎の彼女》のような関係では成立可能であるが、《花子は：ペットの足を≠花子の足／太郎は：親友の彼女を≠太郎の彼女》のように所有関係が認められない場合、持ち主の受身は成立しない<sup>16</sup>。さらに、所有関係がはっきりと異なる以下のような例においては、日・韓の違いがより明確になる。

- 22) 칠수는 순이한테 머리를 (칠수 머리／\*순이 머리) 깎졌다  
 Chseolsu-nun suni-hanthe meori-rul kka-ki-eoss-ta  
 太郎は 花子に 髪を (太郎の髪／花子の髪) 切られた

例 22) において、髪的所有者が太郎の場合は韓国語でも成立可能であるが、花子の髪の場合は、韓国語では成立しない。では、日・韓両言語間に見られるこのような違いは、どのように説明できるのだろうか。その成立可否には、以下のような構文的違いが関係していると考えられる。

- 22') a. 太郎は花子に髪を切られた (太郎の髪) ← 花子が太郎の髪を切った  
 b. 太郎は花子に髪を切られた (花子の髪) ← 花子が髪を切る

上の例 22'a) は典型的な持ち主の受身文であり、このタイプは韓国語においても成立可能である。一方、例 22'b) のようなタイプは、対応する文を【花子が髪を切る】のように想定することができ、事態の成立には関与していない外部のもの（上の例では「太郎」）が、新しく受身文の主語となる「迷惑の受身（第三者の受身）」として捉えることができる。そうすると、上の例で見られるような日・韓両言語間の違いは、「迷惑の受身」の成立可能性における両言語の違いを反映しているものであると考えることができる。

以上、韓国語における「持ち主の受身」を中心に、「間接受身」の成立可能性について論じ、「ある基盤の受身」中心の韓国語の受身が、間接受身を許容するのは「使役文」と関係があることを主張した。他方、その間接受身の成立範囲における日韓の違いは、迷惑の受身の成立可否によるものであることを明らかにした。

<sup>16</sup> 韓国語における「持ち主の受身」の制約は、白 (2008) を参照されたい。

#### 4. まとめ

本稿では、言語一般の受身文の類型として「ある基盤の受身」と「いる基盤の受身」の二つのタイプを仮定し、韓国語の受身形式の特徴を手がかりとし、他言語との比較・対照から、次のような機能をもつものであることを示した。

【ある基盤の受身：もの（非情物）に起きた変化を捉えるもので、本来人の行為によって成り立つ事態を、ものを主役として述べるための受身】

「他動／自動」の対立をベースにし、その延長に2次的に「能動／受身」の対立を表す形式として機能する。意味的には、対象の変化または状態に焦点が置かれるため、対象以外の昇格を許容しない。

【いる基盤の受身：人（有情者）の存在という事柄を中核とし、その主語における被影響性を捉えるための受身】

有情主語を取る「いる基盤の受身」には意味特徴の異なる2つタイプ、「pat-ta」「tangha-ta」タイプと「toy-ta」タイプとが共存し、「能動／受身」の対立を表す形式として機能するとき（「pat-ta」「tangha-ta」タイプ）は、受身文の主語が当該事態からの影響を被るという意味特徴をもち、「他動／自動」の対立を表す形式として機能するとき（「toy-ta」タイプ）は、「ある基盤の受身」に類似する意味特徴を持つ。

この二つの受身文の特徴が日韓両言語の受身の在り方を特徴付けられるものとし、韓国語の受身は「ある基盤の受身」を中核とするもので、日本語の受身は「いる基盤の受身」を中核とするものであるとし、この違いが間接受身の可能性にも反映されることを明らかにした。換言すれば、まず「持ち主の受身」の成立には、結合価の減少を伴わないという統語的特徴と、使役文が受身の意味を内在している特性が関係していることを他言語との対照から明らかにした。また、韓国語の持ち主の受身文には、日本語のような意味局面<sup>17</sup>の拡張性（所有物が受身文の主語のものでなくても成立する）が見られないが、それには、迷惑の受身の実現可能性の違いが関係していると考えられる。

#### 《用例出典》

[日本語作品]	[対韓訳本]
李良枝 1989 『由熙』(由) 講談社	김유동 1989 유희
遠藤周作 1993 『深い河』(河) 講談社	이성순 1994 깊은 강 (강)
黒柳徹子 1991 『窓際のトットちゃん』(ト) 講談社	김난주 2000 창가의토토

<sup>17</sup> 動詞の語幹が表す行為の影響を有情主語が受ける側面と、事態の成立に関係していない新しい有情主語が事態全体から影響を受ける側面。

## 【参考文献】

- 影山太郎 (2001) 『動詞の意味と構文』大修館書店 pp.3-39
- 志波彩子 (2004) 「2つの受身—日本語固有の受身と非固有の受身」日本語文法学会第5回大会口頭発表
- 白明学 (2007a) 「韓国語における受身形式の機能的特徴」『名古屋言語研究創刊号』 pp.1-14
- 白明学 (2008) 「日本語と韓国語の受身構文研究」名古屋大学文学研究科博士学位論文
- 松下大三郎 (1928/1974) 『改撰標準日本文法』勉誠社  
 (1930/1977) 『標準日本口語法』勉誠社
- 鷺尾龍一 (2004) 「ヴォイス形式の類型と起源について」日本語文法学会第5回大会
- Washio, R (鷺尾龍一) (1993) "When Causatives Mean Passive: A Cross-Linguistic Perspective", *Journal of East Asian Linguistic* 2. pp45-90
- 권재일 (1992) 『한국어 통사론 (韓國語統辭論)』民音社
- 남기심·고영근 (1994) 『표준국어문법론 (標準國語文法論)』塔出版社
- 배희임 (1985) 『국어피동연구 (國語被動研究)』高麗大学大学院 博士学位論文
- 서정수 (1994) 『국어문법 (國語文法)』뿌리깊은나무
- 안증환 (1996) 「태범주에서 본 한국어와 일본어 (態の範疇から見た韓国語と日本語)」『日本文化学報 2』
- 안증환 (1997) 「韓國語の受動態と日本語の受動形態」『四国学院大学論集 94』
- 양정석 (1995) 『국어동사의 의미분석과 연결이론 (國語動詞の意味分析と連結理論)』박이정
- 우인혜 (1994) 「국어피동법과 피동표현 연구 (國語の被動法と被動表現の研究)」漢陽大学
- 이정택 (2000) 「피동성표현에 관한 연구 (被動性表現に関する研究)」『한글 251』
- 이익섭·임홍빈 (1983) 『국어문법론 (國語文法論)』学研社
- 최현배 (1937/1980) 『우리말본』여덟 번째 집고 고침, 정음사

**Abstract**

## Diversity and Structural Features in Passive Form

Myunghak BAIK

The present study i) suggests that universal passive sentences can be divided into two types, one is an *aru-based passive type* and the other is an *iru-based passive type* and ii) shows that these two passive types function as follows,

*aru-based passive type*

This type functions fundamentally on the transitive-intransitive opposition of the object, and can function secondarily as the indicator of active-passive opposition upon its transitive-intransitive opposition. The semantic focus of this type is on the state or the change of objective, so non-objective arguments cannot be raised into subjective.

*iru-based passive type*

This type takes an animate subjective of the passive voice and according to their semantic characteristics it can also be divided into two subclasses, namely, a *pat-ta*, *tangha-ta* type and a *toy-ta* type. On the one hand, when this type of passive sentence functions as the indicator of active-passive opposition (*pat-ta*, *tangha-ta* type), the subjective shows the semantic feature being directly influenced by the event which is described in the passive sentence. On the other hand, when this type functions as the indicator of transitive-intransitive opposition (*toy-ta* type), it shows the similar semantic characteristics with *aru-based passive type*.

This observation suggests further that iii) it can be determined by the characteristics of *Possessor passive*, whether or not Korean and Japanese have indirect passive.